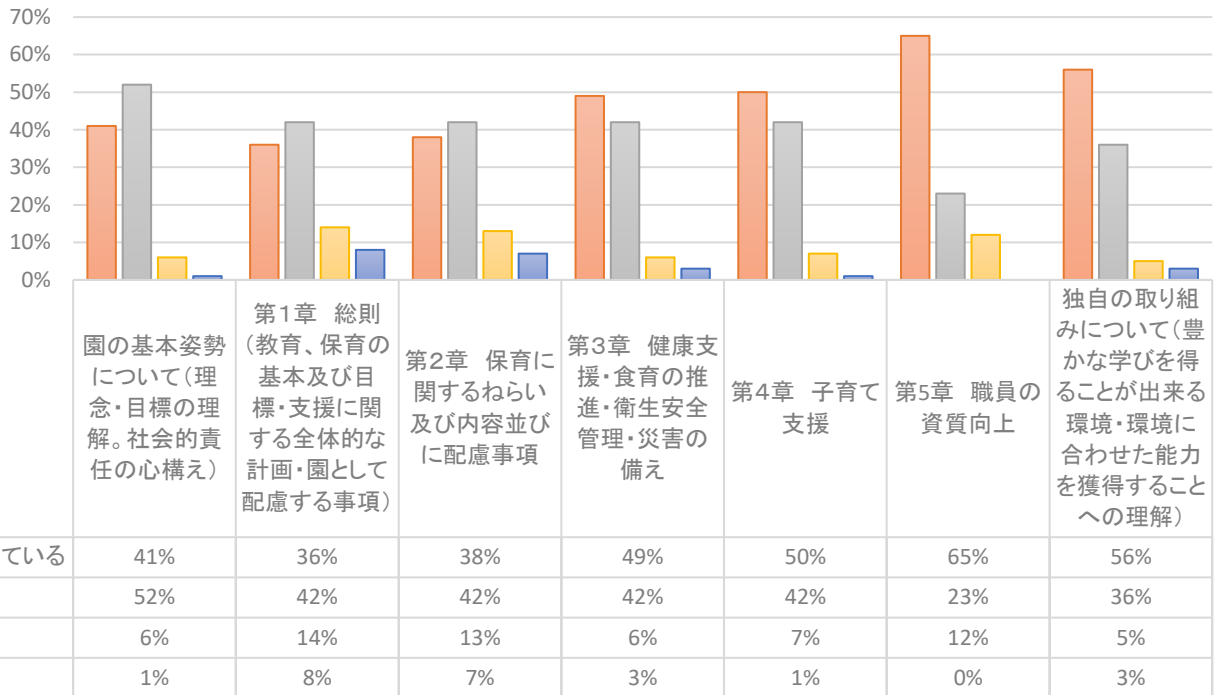


# 令和4年度 ゆいの詩 自己評価 総評

令和5年3月31日

回答人数： 37 名

令和4年自己評価 総評 グラフデータ



総評

・Ⅰの教育・保育の基本姿勢については、93%の職員が理解している。「普通・努力が必要」と感じている職員がいたため、令和4年度末総括のなかで「教育保育理念・教育保育方針」について再度共有を図った。

・Ⅱの第1章総則に関して、「普通・努力が必要」と感じている職員が22%と項目の中では一番多かった。特に「教育及び保育の内容ならびに子育ての支援等に関する全体的な計画の役割」について、理解が浅い職員がいることから、こども園の関係法令についての研修や、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を活用し、認定こども園の社会での役割や特性を学ぶ必要があると感じた。令和5年度の職員研修計画について、理解を深めるよう取り組みを実施する。

・Ⅲでは、教育・保育において、保育環境が子どもたちの学びを支え、子どもの主体性を育むうえで大切な要素であることを、ほぼ全ての職員が理解していることが読み取れる。令和5年度も、「保育環境委員会」「保育環境チェックリスト」「環境構成をテーマにした園内研修」等、保育環境の大切さを学び続けるための委員会や研修を継続して実施していく。

次年度の重点目標

1 質の向上に向けた意欲と実践	年2回の職員の施設内見学を実施し、客観的に保育の在り方を見直す機会を作る。また、保育環境改善及び向上とリスク予防に伴い、より安全で安心な保育運営に努める。
2 専門性の向上と活用	教育・保育の専門性を高めるため、研修計画に基づいて適切な実践と研修を実施する。また、こども主体の保育についてさらに職員の理解を深めていく。
3 利用者理解と個別サービスの追求	保育教諭、養護教諭、栄養士による個別指導計画を活用した、ミーティングを定期的実施する。